

川上宏奨学金報告書

論文題目：伝統工芸の現状と課題―栃木県伝統工芸士として―

1. 卒業論文の要旨

衰退傾向にあり、中には後継者不足や世間の需要の減少によって存続自体が難しいものもある伝統工芸。今回の卒業論文研究では、実際に現在活動している伝統工芸士がなぜ伝統工芸の世界に足を踏み入れたのか、後継者不足などの伝統工芸の現状に対してどのような考えを持っているのか、またその問題に対して何かしらの行動を起こしているのか、またその成果は表れているのかということ調査疑問とし、インタビュー調査を行った。この調査疑問をもとに、伝統工芸士は伝統工芸を後世にも残していくためにも、栃木県内の伝統工芸に携わる人々が一致団結し、様々な広報活動や新たな取り組みを積極的に行っている、またはそのような熱い思いを持っている点がみられるという調査仮説を立てた。今回調査したのは、栃木県が伝統工芸として指定している宇都宮市の野州てんまり、ふくべ細工、小山市の結城紬、日光市の日光彫、那須烏山市の烏山手すき和紙の 5 つの伝統工芸に携わる職人であり、また栃木県が伝統工芸士として認定している 5 人にインタビュー調査を行った。

第 1 章では、伝統工芸に携わるきっかけとして、第 1 節の伝統工芸との出会い、第 2 節の伝統工芸に携わることを決めた理由から 5 人の伝統工芸士の人それぞれのきっかけについて触れた。定年退職や育児を終えたことを機に空いた時間の有効活用の一環として伝統工芸に携わるようになった場合と幼い頃から家業として身近な存在であり、跡を継ぐ形で伝統工芸に携わるようになった場合が見られた。また、後を継ぐ形の場合でも、長男であることで継ぐことが当たり前であった環境によるもの場合、長男が跡を継がず父の代で途切れてしまうことを可哀そうと考えての場合、兄が三代目として跡を継いでいることで、手伝うという感覚での場合が見られた。筆者は伝統工芸に携わることを決めた理由として、この伝統工芸に携わりたい、広めていきたい、後世に残していきたいという熱い思いを持って伝統工芸に携わることを決めている方がいると想定していたが、今回の調査では、空いた時間の有効活用や代々続いてきた家業を継がなければならないという責任からの伝統工芸に携わる理由であった。

第 2 章では、伝統工芸の後継者について、それぞれの伝統工芸士がどの様に捉えているのかをまとめてきた。ふくべ細工、烏山手すき和紙は、1 人、1 家族でその伝統工芸を守っているのが現状であり、また後継者の見通しも立っておらず、とても厳しい状況に立たされている。野州てんまりは後継者という名前には困っていないが、きちんとした技術の継承という点で現状に問題がある。日光彫は、日光という観光業が盛んな環境の影響もあり、現状の収益を優先し、職人の後継者に対する意識が他の伝統工芸と比べ、強くないことが感じられた。また、全体として、技術を後世に残していきたいという思いがある一方で、伝統工芸

で生活していくことが大変なことであり、また衰退していく見通しの立たない業界であることも分かっていることから子や孫を後継者にする事への難しさもある。本業としてではなく、副業や老後や育児を終えた後などで活動することで、伝統工芸として残していくという方法も必要になると考える。

第3章では、伝統工芸の現状と取り組みについて触れた。伝統工芸の衰退の一因としては、今まで日常生活品の一部として使われてきたものが、時代の流れとともに用途が減少したり、安価な代用品の登場によるものであると考えられるが、その中で生き残っていくための取り組みとして、他県からの修学旅行生や観光客を対象にした体験学習や、和紙での卒業証書用紙制作などを行っていた。ふくべ細工や烏山手すき和紙では、体験学習や卒業証書用紙制作といった取り組み自体が、現在の主要な収益源となっていた。

伝統工芸士は伝統工芸の抱える問題を強く実感し、現在の生活や伝統工芸を残していくために取り組んでいるが、衰退傾向に対抗するためには、今以上の取り組みと努力が必要である。

2. 奨学金の主な用途

- ・交通費

3. 謝辞

この度、本研究を実施するにあたり奨学金を給付してくださいました、故川上宏先生とそのご家族、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。川上奨学金により、複数回栃木県に足を運び、満足のいくまで調査を行い、本論文を完成させることが出来ました。本当にありがとうございました。